

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2013-秋

No.73

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



暮師寺の夕べ 1997年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

公益財団法人

文化財保護・芸術研究助成財団

FOUNDATION FOR CULTURAL HERITAGE AND ART RESEARCH

エローラ石窟群

(インド)



ユネスコ世界遺産(文化遺産)シリーズ

©UNESCO

デカン高原西部の岩山にある計三十四の石窟群。七、八世紀以後丘の中腹約二キロメートルにわたって、仏教、ヒンドゥー教、ジャイナ教の寺院が次々に掘削されました。仏教窟はほとんどが僧院で仏像が描かれ、ヒンドゥー窟にはヒンドゥー教美術の最高傑作の多くが見られます。

エローラ石窟群はアジャンターと双壁をなす、インド宗教芸術の宝庫といわれています。

(一九八三年に文化遺産として登録)

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

「文化が持つ力」

文化庁長官就任にあたって

一九五四年夏、ベトナムとの戦いに敗れたフランスはベトナムからの撤退を余儀なくされた。しかもその数ヶ月後にはアルジェリアでの戦争に突入し、一九六二年、和平交渉の結果、アルジェリアの独立を承認することになった。フランスにとってきわめて厳しい国際関係のなかで活路を見いだそうとしたのが文化を軸とした外交政策であり、文化政策だった。サンフランシスコ条約締結の際に吉田茂首相から要請された松方コレクションの返還は、アジアでの存在感に危機を抱いていたフランスにとつては失地回復のチャンスだった。松方コレクションを日本国民に寄贈することを決定した大統領令にはこの時期のフランスの政治状況が色濃く反映しているのである。また、アンドレ・マルロー(一九〇一―一九七六)を中心とする文化政策の推進も、閉塞状況を突破するための数少ない方策の一つだったといえよう。

五十年代、六十年代と現代とでは国際状況にかなりの違いがあり、フランスと日本の社会状況も大きく異なっている。しかし、文化に注目して新たな活路を見出した当時

のフランスの動きは、日本にとつても大いに参考になる事例である。産業や農業などの振興策、あるいは公共事業がこれまでのやり方では効果がないことは自明のことになっていく。そうではあっても、それらとはまったく異なる斬新な政策を構想できない状況の中で、いままでも重要課題として取り上げられることのなかった文化政策を本格的に浮上させることは方法論としても間違っていないはずである。

そんな見通しをもちながら文化庁の中で文化政策の現実と接するようになって二ヶ月近くが経過した現在、文化政策がもし真に国家的な最重要政策と位置づけられたら、それに携わっている多くの関係者は高所恐怖症のような思いを抱くことであろうと推定せざるをえない。予算も人員もまったく足りないからである。いまは、これまでの文化政策の全体を把握することと日本の文化資源の棚卸しを早急に終わらせることによって、近い将来、本格的な重要政策を実施できる基盤を構築しておくことが何よりも大切であると考ええる。なぜなら我が国にはいまだ十分に日の目を見ていない文



文化庁長官
青柳正規
(あおやま まさのり)

化資源が数多く眠っているからである。基本的にでより詳細なデータに基づく構造的な文化政策の施行にとって欠かせない条件だからである。

その一方で、東日本大震災の復旧活動のような緊急性のある課題にも取り組んでいくことが重要である。文化庁では平成二十三年三月の東日本大震災の発生直後から「東北地方太平洋沖地震罹災文化財等救援事業(文化財レスキュー事業)」に取り組み、多くの方々のご協力により一定の成果を上げることができた。一方、福島県内においては、福島第一原子力発電所の事故により、現在も多くの文化財が必要な措置を施されることなくそのままの状態に残されており、それらの救出が喫緊の課題となっている。そこで、「文化財レスキュー事業」と同じく、独立行政法人国立文化財機構を中心とし、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の協力を得ながら「福島県内被災文化財等救援事業(福島文化財レスキュー事業)」を実施することになった。「文化財レスキュー事業」同様、多くの方々のご協力をお願いする次第である。

福島県被災文化財救出活動への眼差し

悪夢とも思える東日本大震災からもう二年半。

復興を目指す様々な活動の中で原発事故による警戒区域の中で取り残された被災文化財に
今、ようやく救いの手が差しのべられようとしている。その現状をレポート。

取り残された被災文化財

平成二十四年十月下旬、今からちょうど一年前、福島県の警戒区域（当時）の範囲内にある富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館、双葉町歴史民俗資料館のそれぞれの収蔵品救出作業に、文化庁の一員として参加した。

福島県では、東京電力福島第一原子力発電所での原子炉事故を受け、広範囲で地域住民が避難し、その後の立ち入りが制限されている。したがって、この地区では震災直後に住民不在となり、各町の文化財担当者も現地を離れ、文化財の多くは取り残されたまま救出されずにあった。前記各資料館も、施設内に貴重な文化財や資料類を収蔵したまま一年半以上が経過していた。

県教育委員会は平成二十四年五月、県内の各市町村教育委員会、博物館施設、大学等を結集する福島県被災文化財等救援本部を設立し、七月末、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局に対して警戒区域内の資料館収蔵品に関する救援要請を行った。同事務局では対応策を慎重に検討し、八月一日、東京文化財研究所および東京国立博物館の職員からなるチームが、県内メンバーとともに、収蔵品を区域外へ搬出するための前提となる梱包作業に従事すべく、文化財レスキューとして初めて警戒区域に入った。ここに至るまでの、そして具体的活動が開始されて以降の、現地スタッフを始めとした県内組織の固い意志と、救援委員会構成団体の大きな決断には感服を禁じ得ない。



劣化著しい施設内部（富岡町）

警戒区域内で活動する際の装備は、タイベックスーツ、防塵マスク、ラテックス製手袋、靴カバーの着装を基本とし、有害物質を体内に一切取り込まないよう十分な注意を要する。また各自ポケット線量計を着ける。資料館内は線量が低いので、館内への汚染物質の侵入を防ぐため、館外で着装するスーツを脱いでから館内活動を行う。

各資料館の収蔵品は、まず放射線量の測定を行い、数値が安全基準以下であることを確認してから、簡易撮影と調書作成の上、梱包される。対象は古文書、公文書、考古資料、民俗資料、剥製標本、絵画作品など多岐にわたる。三資料館とも当初は収蔵資料の全てを搬出する計画ではなく、必要最小限にとどめることにしていた。搬出する資料類の一時保管先は相馬市の旧相馬女子高等学校の教室を宛てたが、その収蔵環境や収容力の問題もあったためである。

全ては、まだこれからだ

警戒区域から搬出された収蔵品は旧相馬女子校に到着すると、待機していた福島大学の学生ボランティアを中核とする収納班メンバーによって、それぞれ割り当てられた教室に仕分けされ収納されていく。これらの資料は、各資料館搬出時の調書をもとに整理され、点検、簡易なクリーニング、撮影が行われる。昨年度は延べ一八回の梱包作業、三回の搬出作業が行われ、平箱に換算して一二〇〇箱以上、約五三〇〇点の収蔵品が救出された。レスキュー活動で警戒区域に入ったのは延べ人数で二二六人に及ぶ。

救出された資料は、文化庁の被災ミュージアム再興事業の補助金を活用して設置された仮保管施設へ



混乱したまま放置された施設（大熊町）

福島に残された多くの課題と私たち

うやく本格的になってきたと言える。福島県文化財を巡る課題への関心が薄らぐことのないようお願いしたい。

それにしても各施設の地震による損傷、亀裂からの雨漏り、環境維持が困難なことによる生物被害、メンテナンスが施されない施設の劣化、大型の生物被害の増大など、人が手間をかけて面倒を見ないと施設がどうなるかを目の当たりにする。本来堅牢な施設だったはずが、劣悪な環境のまま放置され、無惨な状態を晒しているのを見るのは忍びない。なかなか進まない復旧、復興。人の営みが止まってしまった街、劣化の進行を止めることのできない施設。福島における課題の困難さを再認識する。

眼下に残る一年前の風景がある。検問を通過し、緊張しながら警戒区域の内側に進む。秋の明るい日差しの下、人や車の姿を一切見ない風景を車窓に眺めやりながら、ふとこの景色に好ましい感情を抱いている自分に気づいて戸惑う。目の前に延々と広がるのは黄色く輝く美しい野原だった。その正体は群生

双葉町歴史民俗資料館からの収蔵品搬出作業



仮収蔵庫の収納状況（まほろん）



セイタカアワダチソウ

するセイタカアワダチソウ。これが作付けを行わずに放置された田圃に人の背丈を超える高さにまで伸び、異様な密度で咲き誇っている。この田を元通りに戻すことはたやすいこととは思われない。区域内での活動を終え、北側の検問を抜けて南相馬市にあるスクリーニング会場へと向かう。この辺りは津波の被害を受けており、途中で目にする光景は朽ちて変形した大量の車輛が荒廃した田圃に散乱しているというものであった。この光景が不愉快なのは、震災後一年半を経過してなお直後の情景のままであること以上に、先ほどまで広がっていた目に美しい黄色い野原が突然消えてしまったことにある。辺りはセイタカアワダチソウでさえ繁茂できない程に津波による塩害が田圃に深刻な悪影響を及ぼしているようだ。これを元通りにすることは一層困難なことと思わざるを得ない。

福島では原発事故の報道が中心のためか沿岸部の津波被害や、地震の揺れそのものによる被害が十分に伝わってこない。旧警戒区域内では数多くの倒壊した家屋を目にした。それらがまだ撤去されずに道路を塞ぎ通行の妨げになっている場所も少なくない。福島の複合的な課題の難しさをあらためて考える。



スクリーニングの様子

文化庁文化財部美術学芸課
朝賀 浩
(あさか ひろ)



「ルツエルン・フェスティバル アーク・ノヴァ松島」開催によせて

2013

音楽は人の心を時に鼓舞し、慰勞し、希望に満ちた未来へと導く力を持っている。今秋、松島の地から世界の一流アーティスト達による鎮魂と復興を祈る樂の音が流れる。



何ができるか 何をやらねばならぬのか

二〇一二年三月十一日、私はニューヨークにいて、友人のニューヨーク・フィルハーモニックオーケストラの音楽監督アラン・ギルバートから東日本大震災の第一報を聞きました。翌日ルツエルンに戻り、すぐに友人である梶本眞秀・梶本音楽事務所社長に電話をし



会場の眼下には日本三景に数えられる特別名勝松島



特殊なポリエチレン製の被膜を用いて作られた異次元感覚の移動コンサートホール

て、何か我々にできることはないかと聞きました。話し合った結果、短期的なチャリティコンサートを開くのではなく、東北地方向けに移動式のコンサートホールをつくるような持続的なプロジェクトで支援したいということになりました。そして、私はふり友人である建築家の磯崎新氏に電話をし、二〇一一年五月に東京で会おうと約束しました。会って話した際、磯崎氏は移動式コンサートホールのアイデアにとっても興味

をもち、彼の友人でイギリスの彫刻家アニッシュ・カプーア氏と一緒に作りたいと言ってくれました。翌六月、磯崎とカプーアの両氏は膨らませる形態の移動式コンサートホールのアイデアを提示してくれ、私はぜひやりたいと思いました。これが「ルツエルン・フェスティバル（注1）アーク・ノヴァ（注2）」のはじまりです。

「ルツエルン・フェスティバルアーク・ノヴァ」について、初めて公に発表したのは二〇一一年八月九日ルツエルンにて開催されたクラウディオ・アバド指揮による特別なメモリアル・コンサートにおいてでした。グスタフ・マーラーの未完の交響曲「第十番」から「第一楽章アダージョ」を演奏し、東京国際フォーラムに中継されたものです。

日本からも、世界からもこのプロジェクトについて高い評価をいただき、このスイスからの日本への贈り物を実現するため寄付を募りました。当初より、ウルス・ブーヘル駐日スイス大使からは多くのサポートをいただき、よき友として今も多くの支援をしていただいています。

ファウンディング・パートナーとして最初にこのプロジェクトに賛同し参画したのは、スイスのUBS、ネスレ、並びに武田薬品工業、そしてルツエルン・フェスティバルです。彼らの参画により、磯崎新氏の事務所とともに今回のプロジェクトの実現に向けて本格始動することができたのです。



多くの協力者たち

その後、建築や運営などの実現方法について模索するのにかかなりの時間を要しました。二〇一二年一月に

梶本音楽事務所の梶本社長と一緒に初めて東北を訪れた後、運営方法について色々な可能性を探り続けました。ソニーの元CEO出井伸之氏や、政府関係の方などとお会いしてお話しする機会があったことも、プロジェクトを進めて行く上で大きな指針になっていきました。そういった関係のなかで、実行委員会の体制が整っていきました。

実行委員会の体制が整ったのち、「ルツエルン・フェスティバルアーク・ノヴァ」プロジェクトは推進力を増し、実現に向けて大きく前進をはじめました。最初の開催場所として宮城県の松島という案が浮上したのもこのころです。私は二〇一二年七月に初めて松島を訪れ、松島町の大橋健男町長にお会いしました。この時、松島が「ルツエルン・フェスティバルアーク・ノヴァ」最初の開催地としてびつたりだと感じました。二〇一三年一月、「世界経済フォーラム」いわゆるダボス会議にて「ルツエルン・フェスティバルアーク・ノヴァ」についてプレゼンテーションを行い、多くの賛同を得ることができました。これも一つ大事な節目となりました。それ以来、実現に向けて詳細を詰め、この秋に向けて準備を進めてきました。

「ルツエルン・フェスティバルアーク・ノヴァ」の



ホール内部。光を受けて外部が感知できる空間は今までにない感動的な音楽体験を提供



瑞巖寺杉を用いられて製作された座席に記念の刻印が...

象徴のひとつに、今回のホールがあります。建築家の磯崎新氏、彫刻家のアニッシュ・カプーア氏が参画した松島での会場は、建築・アート・デザインの世界の理想的な共生を象徴していると思います。異なる分野の芸術家による、別々のアートの形態がこのように統合されるというケースは非常に稀ですし、その上今回はそこで音楽や演劇のように多様なパフォーマンスがお互いの境界を越えて交わることも稀なことです。今回のプロジェクトは、建築をはじめとしてその点でもとても創造的な試みになっています。



文化による復興を目指して

この秋、松島で開催する「ルツエルン・フェスティバルアーク・ノヴァ松島2013」では、世界で活躍する音楽家や日本の伝統芸能の役者などによる多くの芸術プログラムを実施します。ただ、このプロジェクトでは単に東北に偉大な音楽家を連れてくるということではなく、東北地域の方々と交流を重視しています。そのため、ベネズエラ出身の指揮者グスターボ・ドゥダメルや坂本龍一と東北ユースオーケストラなどの音楽教育の要素を重視した子ども音楽プログラムは、本プロジェクトにおいてとても重要な意味をもっています。松島をはじめ東北の方々には、ぜひ積極的にアーク・ノヴァに参加していただき、自分たちのものとして考えていただきたいと思います。

「ルツエルン・フェスティバルアーク・ノヴァ」の準備に携わってきたこの二年間は、私にとっても意味が大きく、また充実した時間でした。今まで経験してきたプロジェクトと異なり、今回のものは大きなひとの哀しみの上につくられており、自然の猛威にさらされた地域社会へのコミットを含めたプロジェクトです。私自身、いよいよこのプロジェクトが今秋実現し、東北地域に新しい文化の種を植えられるという自分の夢が実現することについて喜びを感じており、期待が高まっているところです。アーク・ノヴァは新し



ルツエルン・フェスティバル芸術総監督
ミハエル・ヘフリガー
MICHAEL HAEFLIGER



いお祭りをつくるということではなく、未曾有の経験を乗り越えた地域社会に新たな希望をもたらすことを目標にしています。このプロジェクトは東日本大震災で行方不明になられた方、亡くなった方、家族が離れ離れになってしまった方など多くの方にも捧げたいという想いでいます。

今回「ルツエルン・フェスティバルアーク・ノヴァ」を松島で実現するために多くの方々の支援や協力をいただいております。そのことについて感謝を伝えたいと思います。そして、「ルツエルン・フェスティバルアーク・ノヴァ松島2013」が、松島をはじめとする東北のみなさんに楽しんでいただけて、感動や喜びをもたらす一助に、文化復興の旗印になれることを願っています。

「ルツエルン・フェスティバルアーク・ノヴァ松島2013」は、松島湾を見おろす「西行戻しの松公園」に設けられた特設会場でウルス・ブーヘル駐日スイス大使、地元松島町の大橋町長ら多くのゲストをミヒャエル・ヘフリガー、ルツエルン・フェスティバル芸術総監督、梶本眞秀アーク・ノヴァ実行委員長が迎えるなか、九月二十八日華やかに開幕しました。

冒頭を飾ったのは、グスターボ・ヒメノ指揮による仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏。ベートーヴェンの「プロメテウスの創造物」と交響曲第六番「田園」が披露されました。

磯崎新氏とアニッシュ・カプーア氏の手による移動式コンサートホールの内部は東日本大震災の津波被害と地盤沈下によって伐採を余儀無くされた瑞巖寺参道の杉が特別の許可のもと、音響反射板や床、座席等として用いられています。

注1 一九三八年、スイスのルツエルン湖畔のワグナー（一八八三年〜一八八三年）の邸宅前で開かれたアルトゥーロ・トスカニーニ（一八六七〜一九五七）指揮によるガラ・コンサートに始まった音楽祭。注2 アーク（ARK）は「箱船」、ノヴァ（NOVA）は「新しい」という意味。旧約聖書の創世記に登場する大洪水伝説の主人公ノアに由来する。

復活！女川町の獅子振り ―地域をひとつに―

おな がわ ちよう

祭りほど郷愁を駆り立てるものはない。
祭りの日、人々は故郷に帰る。迎え入れる人々にとっては祭りは明日への英気となる。
祭りによって完全復興を目指す宮城県女川町の人々の心意気を見る。

復興へのシンボル

女川町は、宮城県の東端牡鹿半島の頸部に位置する人口約一万人の風光明媚な港町でした。

世界三大漁場の一つ金華山沖を眼下に全国屈指のサンマ水揚げ量を誇り、養殖キンザケ生産量日本一の町でもありました。

ここで、「でした」という過去形を用いたのは平成二十三年三月十一日、午後二時四十六分頃に発生したマグニチュード九、震度六弱の「東日本大震災」によって、美しい港町や尊い人命、家屋はもとより、多くの思い出なども高さ十数メートルの津波に全て流されてしまい、廃墟となったことからです。

その中で、各地区・各浜に伝わっていた民俗芸能「獅子振り」の獅子頭や太鼓・笛・衣装などもすべて流失してしまいました。

女川町の獅子振りは、各神社ごとに存在しており、地域のコミュニティを形成するもので、正月にその地区の家々を一軒一軒練り歩き家の中の悪霊悪魔を追い払い、家内安全、無病息災、商売繁盛、大漁祈願を行う地域の絆の強さの源でもあります。

また、その地区ごとの獅子頭もすべて顔形が違います。日本は古来、神社ごとにコミュニティが形成されていたと思います。

しかし、震災によって仮設住宅や見做し仮設住宅、



獅子の顔形はすべて違う

あるいは地域外に暮さざるを得ない方々もあり、地域がばらばらになっている状態が続いています。

このような状況の中で、獅子振りの道具が揃うことによって、獅子振りが出来ればそのときだけは地域が一つになれるのではないかと、太鼓や笛の音色、獅子振りによって地域の方々が元気になるのではないかと強く感じていました。

獅子振り復活を目指して

震災直後は、文化財の保護に全国各地から様々な救いの手が差し伸べられましたが、地域の民俗文化財には少し遅れを感じていたため、まずは、各地区の獅子振りの被災状況から調査を実施しました。

震災前までは、神社ごと各地区に獅子振りをする団体（地区）が二十一団体（地区）あり、正月に家々を一軒一軒練り歩いていましたが、震災後、調査した結果、獅子頭・太鼓など高台の神社に保管していたため、津波の被害を免れた地区が六地区。個人で保管していた半纏・笛が流失したり、太鼓が一部海水をかぶり皮の張り替えが必要な地区もありました。道具全てを流失した地区は十四地区、仮に支援を受けられたとしても獅子の復活は出来ないとされた地区が二地区、是非、支援をいただき獅子振りを復活させたいという地区が十二地区という調査結果となりました。

そこで支援を頂ける団体を探したり、宮城県文化財保護課の指導をいただきながら「女川町獅子振り復興協議会」を立ち上げ、会則を定めたり、役員を決めるため、総会を開こうとしましたが、その頃は各地区とも浜のガレキ撤去作業などでそれぞれころではありませんでした。持ち回り協議のように事務局が、書類を関係者に回して決済を受けることで事態



女川町獅子振り復興協議会事務局
平塚英一
(なかが えいいち)

獅子振りのエネルギーを完全復興にむけて

を進めて行くことにしました。翌年四月一日付で私も生涯学習課から町民課へ人事異動となりましたが、協議会そのものは民間団体でもあり、所属していた部署と新しい部署の課長にお願いし、そのまま私が引き続き事務局としてやらせていただくようになりました。当然、会合などは時間外や土日の休日に開くようになりましたが、各団体の代表者の方々のご協力によって進めることが出来ました。

お陰さまで、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団、公益財団法人日本財団、宮城県地域文化遺産復興プロジェクト実行委員会、アメリカン・エキスプレス・インターナショナルから支援をいただき十五地区の獅子振り道具が全て揃うことが出来ました。

獅子は、悪霊悪魔を追い払うとされていることから、津波という悪魔を追い払い、犠牲となった方々を追悼し、一日にも早い復興を祈念するとともに多くの支援に感謝するため、八月十一日に「復活！獅子振り披露会」を開催することが出来ました。

当日は、猛暑の中にもかかわらず出演者十四団体二百人、観客約三百人、支援いただいた各団体の方々にも参列いただきました。

観客の中には獅子囃子をする方、頭をかぶりついてもらう方など大変盛り上がりしました。女川町は町民の約七割以上の方々が被災し、不自由な生活を二年半近くたった今でも送っておられます。祭りがあり、正月行事があり、そこに集う人々との交流が当たり前のようであった日々の暮らし。被災者の方々の誰もが震災以前の普通の生活を望んでいることは痛いほど良く解ります、この「復活！獅子振り披露会」で、その普通のことの少しでも感じ取っていただけたような気がします。獅子の舞手・太鼓の叩き手など出演者も大きな喜びと感動をいただいたことでしょうし、もちろん、来場された多くの町民がとても喜んでいただけたことがなによりでありました。

来年の正月には「普段通り」の正月の獅子舞が各地区で復活することが出来ます。

仮設住宅暮らしなどで地区を離れた方々も獅子振りを舞うために正月には実家や地区に戻ってくる。このように地域の民俗芸能を後世に残すための継承活動が、地域のこ



女川町 復活獅子振り披露会を機に完全復興を目指す

コミュニティの結束や地域内の相互連携が推進する。それが、地域の民俗芸能「獅子振り」なのだと思えます。

でも、これはスタートでもあります。女川町の『完全復興』を目指して、町民に獅子振りを通じて少しでも元氣を与えられるよう、微力ながら頑張りたい！最後に女川町獅子振り復興協議会に支援いただきました多くの団体・個人と「復活！獅子振り披露会」開催に携わっていただいたすべての方々には心から感謝と御礼を申しあげます。

筆者略歴

昭和三十五年女川生まれ。昭和五十八年東北福祉大学卒。同年女川町役場社会教育課（現生涯学習課）に十五年、ここで文化財行政に携わる。
本人は、獅子も振れず、太鼓も叩けず、笛も吹けない。現在、町民課勤務。

盛り上がる復活獅子振り披露会



獅子舞とは

女川町で「獅子振り」と呼ばれる獅子舞は全国至る所で様々な形で行われている。獅子舞は7世紀頃に百濟から伝わったとされるが、その起源や日本への伝播についても諸説あり、定かではない。女川町における「獅子振り」は各地区に永く伝承されていて、地域間における絆の強さの源ともなっている。

妙高だより

もつすつかり地元の方たちとも馴染みとなった

「妙高夏の芸術学校」。本年は大きな意味で学校の生みの親とも言うべき

岡倉天心生誕一五〇年、没後一〇〇年とあって例年とは別の盛り上がりでした。

華やかな開校式

恒例の「妙高夏の芸術学校」が今年も去る七月二十五日から二十八日までの四日間、妙高夏の芸術学校実行委員会主催のもとで開かれました。当財団は共催と言う形で協力いたしました。

数えて十八回目となる開校式には、今年が岡倉天心生誕一五〇年、没後一〇〇年という節目の年ということもあり、当財団の理事長でもある東京藝術大学の宮田亮平学長が名誉校長として出席しました。また、来賓として前文化庁長官の近藤誠一氏が出席されました。

都会の喧噪とは無縁の妙高高原。時折り吹く一陣の涼風は、今夏の猛暑を知る身にはなよりの癒しでもありました。

開校式の式場は妙高高原メッセ。「にいがた妙高岡倉天心顕彰会」の婦人部の皆さんがこの日の朝に採取してこられたという野の花々——ヤバネススキ、オオバギボウシ、シモツケソウ、トリアシショウマ、クガイソウ、キキョウ、オオカメノキ、チダケサシ、天心草などが背負い籠に見事に盛られ、人々の目をうばっていました。ちなみに天心草とは、ノコギリ

ソウのことで、天心の山荘にも沢山あることから、地元ではこうよんでいるとの話でした。

宮田名誉校長のユーモアあふれる挨拶、続く近藤前文化庁長官による挨拶では、富士山の世界文化遺産登録までの秘話が披露されるなど、開校式は大いに盛り上がりました。

御存知のように去る六月二十二日にカンボジアの首都プノンペンで開かれたユネスコの第三十七回世界遺産委員会にて、富士山は文化遺産として登録されるのが正式決定されました。

近藤氏はこう語っています。

「富士山の世界文化遺産登録には大変深い意味があります。山容がきれいだから文化遺産になったのではありません。富士山の美しさが日本人に影響を与えて精神性を作り、芸術的なインスピレーションを与え、それが例えば浮世絵などを通じて世界に広まりました。」

この非常に日本的な価値が、目に見えるものに評価が偏りがちな西洋に通じました。うれしかったですね」

ニュース等で報じられたプノンペンでの近藤氏の奮闘ぶりからまだ日も浅いこともあって、出席者の皆さんが氏の一言一言に大きくうなずいていた姿が



財団専務理事
小宮 浩
(こみや ひろし)

印象的でした。

十八年間にわたり「夏の芸術学校」を継続してこられた妙高市ならびに関連諸機関の皆さま方の御努力には心底敬意を表する次第ですが、一つだけ希望



近藤、宮田、高橋、三氏の話に聞いている皆さん

を述べさせていただきたいのです。それは二年前に生徒募集を中止した「小学生コース」の復活です。このコース父兄同伴のケースが多く、そのため親子そろって「芸術」の雰囲気を感じ、楽しめることが魅力です。こうした体験が未来の芸術家を育て、あるいは教養人を育てる種まきになるのだと信じます。

充実した高原の一夜

この日、夕刻の六時半より開校式と同じ会場の妙

高高原メッセ

において「に

いがた妙高岡

倉天心顕彰会

の主催で、天

心の想い——

アート&カル

チャーがもた

らすもの」と

いうテーマの

もと、鼎談が

開かれました。

前述の近藤・

宮田の両氏に

新潟日報社長

の高橋道映氏

が加わり、談

論風発。御三

方それぞれの

立場から天心

像が語られて

いきました。

周知の通

り、天心・岡

倉覚三（一八

六二）一九一



祝辞を述べる妙高市・入村明市長



前文化庁長官・近藤誠一氏



名誉校長の宮田亮平 東京藝術大学学長

明日の妙高赤倉にむけて

妙高赤倉では、現在、天心終焉の地となった赤倉山荘や六角堂を中心にメモリアル・パークの整備が進展しています。

話を元に戻せば、夏の芸術学校の設立は一九九六年、当時東京藝術大学学長の職にあった平山郁夫先生が御自身も天心の系統につながる孫弟子にあたるため、赤倉に新しい芸術拠点を築こうという「妙高バルビゾン構想」を推し進めていたことが契機となっています。

本年の妙高は岡倉天心をめぐる話題満載でしたが、その掉尾を飾るものとして十二月一日に天心最晩年の作（台本）であるオペラ「白狐」が、妙高文化振興事業団の手によって市民参加の形式で上演される

点を築こうと考えていました。

こうした背景をもとに宮田学長は芸術家としての立場から、近藤氏はユネスコ大使やデンマーク大使を勤められた外交官の立場から、高橋氏はジャーナリストとしての立場から各々の「天心像」を語られました。そこには自ずと新たな天心の姿が浮かび上がってきます。

会場を埋めつくした皆さんは、改めて明治が生んだ巨人の業績に瞠目を禁じえなかったようです。

岩絵具 二つの危機を越えて②

第二次世界大戦において敗戦国となった日本。
全ての価値観が大きく変わる中で
人造岩絵具の登場は画家に新たな表現力を……。

戦後の混乱の中で

昭和二十年（一九四五）、明治維新の荒波を乗り越えた岩絵具に再び危機が訪れます。二度目の危機は第二次世界大戦の敗戦です。戦前の価値観が否定されるなかで、岩絵具の母体となってきた日本画にもその矛先が向けられました。『日本画滅亡論』という言葉がどこから発したのかには諸説ありますが、皇国史観を反映した歴史画はもちろんのこと、安穏とした花鳥風月や和服美人を描いている場合ではないという風潮が日本画に変化を迫りました。

新岩絵具の焼成塊 ナカガワ胡粉絵具㈱



日本画家の方でも、戦後社会を反映した表現が志されず。戦争の悲劇や敗戦の衝撃に対する感受性には洋画家も日本画家ありません。さらに、欧米の現代美術に関する情報が流入して日本画家を刺激したことも表現を変化させる要因となりました。戦後の日本画を牽引した山本丘人（一九〇〇～一九八六）、橋本明治（一九〇四～一九九一）、杉山寧（一九〇九～一九九三）、高山辰雄（一九一二～二



東京藝術大学大学院
准教授
荒井 経
(あらい けい)

〇〇七といった日本画家たちは、戦前の東京美術学校で新興大和絵を標榜した教授の松岡映丘（二八八一～一九三八）から薫陶を受けた画家たちです。墨による繊細な線描、抑制された色彩、計算された余白で表現する戦前の画風と戦後の画風を比較してみると、表現の急激な変化に驚かれることでしょう。

戦後の日本画は、何層にも塗り重ねた岩絵具による強靱なマチエールが特徴になりました。マチエールという言葉は、材質を意味するフランス語が画肌を表す美術用語に派生したのですが、戦後の日本画にとって特別なキーワードとして定着しました。粗い砂状の岩絵具による強烈な色彩とザラザラしたマチエールが、洋画に負けない戦後の日本画表現を作り出して日本画の存在意義を保ったのです。

洋画が日本画にもたらしたもの

戦後の日本画を救った岩絵具は、明治末から開発されてきた新しい岩絵具でした。放光堂の石田吉作が明治三十六（一九〇三）年の内国勸業博覧会で受賞して以来、画材商では新しい岩絵具の開発が進んでいました。伝統的な岩絵具は緑色の緑青と青色の群青だけでしたが、大正時代には先に近代化を遂げていた釉薬の技術を転用した色とりどりの人造岩絵具が商品化されて

いました。戦前にはあまり使われなかったそれらの岩絵具が戦後になって活かされたのです。昭和二十七年（一九五二）に岩絵具の製造販売を始めたナカガワ胡粉絵具㈱は、製造規模を拡大することで戦後に急増した岩絵具の需要に応えてきました。後に「新岩絵具」と呼ばれる人造岩絵具は、現在ナカガワ胡粉絵具㈱だけでも百四十種類×十一粒度＝千五百四十色を越えます。ところで、どうして戦後の日本画家たちは新表現に岩絵具を選んだのでしょうか。あまり考えられてこなかった疑問です。私は、松岡映丘とともに東京美術学校の教授だった結城素明（二八七五～一九五七）の影響があったのではないかと思っています。素明は、日本画と洋画の両方を学んだ画家で、戦前から岩絵具を厚塗りした洋画風の作品を発表していました。戦後に活躍した東山魁夷（一九〇八～一九九九）は素明の弟子ですが、魁夷もまたドイツに留学して西洋絵画を学んでいます。戦後、岩絵具の文化は、洋画によって命を救われたと言えるかもしれません。



現在の岩絵具 ナカガワ胡粉絵具㈱

役員等のご紹介

当財団は、新制度により認定を受け平成二十二年四月一日に公益財団法人に移行しました。三年目を迎え役員等にも若干異動がありましたので、左記のとおりご紹介し

◎名誉顧問（一名）

三笠宮崇仁殿下

◎顧問（二名）

俵谷 利幸 弁護士
玉井 賢二 （公財）平山郁夫シルクロード美術館副理事長

◎評議員（二十三名）

飯田 亮 セコム㈱取締役最高顧問
池田 政治 東京工科大学 デザイン学部長
内村 宏 ㈱三越伊勢丹 日本橋本店美術部長
浦井 正明 寛永寺 長藪
奥島 孝康 白鷗大学 学長
是枝 伸彦 ㈱ミロク情報サービス 代表取締役会長
西園寺裕夫 （公財）五井平和財団 理事長
佐藤 一郎 東京藝術大学 教授
佐藤 寿美 ㈱NHKエンタープライズ 代表取締役社長
白井 勝也 ㈱小学館 取締役副社長
澄川 喜一 （公財）横浜市芸術文化振興財団 理事長
高橋 司 （公財）鹿島美術財団 常務理事
田淵 俊夫 （公財）日本美術院 代表理事
堤 清二 （公財）セゾン文化財団 理事長
永岡 公 ㈱精養軒 取締役相談役

◎理事（十名）

中澤 一雄 ㈱高島屋 美術部顧問
野間 省伸 ㈱講談社 代表取締役社長
箱島 信一 ㈱朝日新聞東京本社 特別顧問
英 正道 （公財）日伊協会 名誉会長
土生 修一 ㈱読売新聞東京本社 事業局総務
真室 佳武 東京都美術館 館長
水野敬三郎 東京藝術大学 名誉教授
渡邊 明義 （一財）世界紙文化遺産支援財団 代表理事

宮田 亮平 東京藝術大学 学長
副理事長
林 有厚 ㈱東京ドーム 代表取締役相談役
専務理事
小宮 浩 （公財）文化財保護・芸術研究 助成財団

高嶋 達佳 ㈱電通 取締役会長
滝 久雄 ㈱NKB 取締役会長・創業者
田邊三郎助 町田市立博物館 館長
西浦 忠輝 国士館大学 教授
野口 昇 （公社）日本ユネスコ協会連盟 理事長
野村吉三郎 ANAホールディングス㈱ 特別顧問
宮廻 正明 東京藝術大学 教授

◎監事（二名）

西巻 茂 税理士
布施 謙吉 弁護士
二〇一三年四月現在 敬称略／五十音順

文化財保存修復支援カレンダー募金のお知らせ

二〇一四年のカレンダーは、昨年に引き続き、出光美術館所蔵の国宝「伴大納言絵巻」を、東京芸術大学日本画研究室が現状模写した作品を題材にしました。

平安時代における四大絵巻の一つで、実際に起きた事件をもとに制作された壮大な歴史ドラマが描かれています。

上、中、下巻に分かれているこの物語の現状模写作品が完成するまで、今後数年間にわたり取り上げてゆく予定ですのでご期待願いたいと思います。

オリジナル作品に優るとも劣らない模写制作の卓越した技術をご堪能いただくと

原本 出光美術館蔵



上巻3の場面(模写:湯村友彦)



上巻4の場面(模写:窪井裕美)

もに、文化財保護の重要性をご理解いただきご支援いただければ幸いです。

一口二千五百円以上のご寄付をいただいた方に、このカレンダーを一部贈呈します。お申し込みは左記までお問い合わせください。

【お問い合わせ】

文化財保護・芸術研究助成財団カレンダー係TEL （〇三）五六八五―二三一一
受付時間 十時～十七時（土、日、祝日及び十二月二十七日～一月三日を除く）

文化財保存修復支援カレンダーをプレゼントします

当財団では、文化財保護の精神と重要性を広く知っていただくため、前記の二〇一四年版文化財保存修復支援カレンダーを、応募いただいた方の中から抽選で二十名様にプレゼントします。

【応募方法等】

ハガキに、「文化財保存修復支援カレンダー希望」とご記入の上、住所、氏名を明記し、左記へお送りください。なお、発表は、当選者への発送をもって代えさせていただきます。

●応募先

一〇一〇〇〇七
台東区上野公園十二―一五
（公財）文化財保護・芸術研究助成財団
締切 平成二十五年十一月末日

お願い

◎東日本大震災被災文化財の救援と復旧のための募金のお願い
東日本大震災によって被災した文化財の

保全に向けて、募金活動を行っています。
いただきました浄財は、被災地域の文化財
の救援のために活用させていただくとも
に、修復・保存のために活用させていただきます。

皆さまの温かいご支援、ご協力をお願い
申し上げます。募金のお振込み手続きは左
記の銀行振込又は郵便為替によりお願い申
上げます。

*

銀行振込①銀行名②口座番号③名義

① 三井住友銀行 上野支店

② 普通 6615496

③ 公財文化財保護・芸術研究助成財団
郵便振替（①振替番号②加入者名）

① 0016015112319

② 公財文化財保護・芸術研究助成財団
※通信欄に「地震」とお書きください。

なお、募金はクレジットカードからも可
能です。詳細は当財団のホームページをご
覧ください。

*

皆様のご支援、ご協力により東日本大震
災により被災した文化財の救援・復旧支援
事業につきましては、前号（二〇一三年夏号
No.七十二号）でご報告しましたとおり
順調に進んでおります。

なお、美術工芸品等の動産文化財にかか
る「文化財レスキュー活動」は、平成二十五
年三月末をもって終了したところですが、
福島県に關しましては原発事故の影響で、
現在も救援を必要とする文化財が多く残っ
ている状況です。

このため、引き続き「福島県内被災文化財
等救援事業（福島文化財レスキュー事業）」
を支援して行きます。

時の経過とともに関心が薄くなりがちで
すが、息の長い支援が必要です。

暖かいご支援、ご協力をお願い申し上げ
ます。

◎賛助会員ご入会並びにご寄付のお願い
（賛助会員）

当財団では、財団の活動趣旨にご理解、
ご賛同いただき、恒常的にご支援いただけ
る法人、個人の賛助会員を募集しています。

法人正会員 年額（1口） 50万円
個人正会員 年額（1口） 1万円
維持会員 年額（1口） 10万円

《ご寄付》

賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けて
おります。

また、当財団では、新たに創設された寄
付制度によるご寄付やカードのご利用によ
るご寄付も受け付けております。概要は次
のとおりです。

（特定寄附信託）

○特定寄附信託は、信託を通じた寄附を促
進し、より一層の公益活動を促す観点か
ら平成二十三年度税制改正において創設
された寄附の制度です。

○信託された金銭は運用収益とともに、信
託銀行と契約した公益法人等のうち、委
託者（寄附者）にご指定いただいた公益法
人等に定期的に寄附され、公益のために
活用されます。

○公益法人等は、寄附受領証を発行し、信
託銀行等を経由して委託者（寄附者）に交
付します。また、公益法人等は委託者（寄
附者）に活動状況報告をします。

○当財団はみずほ信託銀行と寄附に関する
包括的契約書を締結しています。信託に
関する詳細につきましては、みずほ信託
銀行にお問合せください。（〇一二・〇
八一・五〇六フリーダイヤル）

（カード）

○当財団は「社会貢献」をテーマとした寄付

金機能付きクレジットカ
ード「JACCS
CARD link」を
発行している株式会社
ジャックスとの連携によ
り、同カードをショッピ
ング利用した場合に、利
用額の一定割合を同社
のご負担によりご寄付
いただくこととしてい
ます。

○同社のカード会員とな
り、カードをご利用いた
だくことにより、当財団の活動をご支援
いただくこととなりますので、カードの
ご利用を予定されている方は是非ご検討
願います。



○お申し込みは、当財団ホームページから、
または事務局までお問合せください。
http://www.bunkazai.or.jp/index2.html

☆財団案内及び賛助会員入会申込書のご請
求、ご寄附、その他ご質問等お問い合わせ
せは財団事務局までご連絡をお願いいた
します。

十一月十六日（土）十四時～

③上野学園大学第62回オーケストラ定期演
奏会（下野竜也指揮）
十一月二十二日（金）十八時三十分～

今号の表紙

平山郁夫 薬師寺の夕べ

薬師寺は興福寺と並ぶ法相宗の大本山。
宗祖は慈恩大師である。この慈恩大師の師
が玄奘三蔵なので、玄奘が事実上の宗祖と
いってよいかもしれない。

平山画伯は寺院の塔を好んで描いてい
る。この作品では薬師寺の東塔と西塔を対
峙させ、シルエツトで描く、空という空間を
大胆に広く取り入れ、今まさに西の彼方に
落ちんとする太陽が印象的である。

「シルクロードの旅は楽なものではあり
ませんが、夕日を見ますとね。今日も無事に
終わったという感謝の気持ち自然とわい
てきますね」と語っていた画伯。

玄奘三蔵の教えを継ぐ薬師寺に平山画伯
は、特別の思いを抱かっていた。
夕日は西方浄土へつらなる画伯の憧憬だ
ったのであろうか。この作品からは画伯の
そんな想いが伝わってくる。
薬師寺は平成一〇年（一九九八）にユネス
コ世界遺産に登録された。



薬師寺の夕べ 1997年

展覧会・演奏会等情報

上野の山の文化施設では「上野の山文化
ゾーンフェスティバル」として展覧会や演
奏会等様々な催し物を開催中（予定）です。
その一部をご紹介しますので、ご利用のご
参考にしてください。なお、詳細はそれぞ
れの主催者等にご確認ください。

☆東京国立博物館

（〇三・五七七・八六〇〇ハローダイヤル）

①特別展「上海博物館中国絵画の至宝」

十月一日（火）～十一月二十四日（日）

②特集陳列「清時代の書」碑学派」

十月八日（火）～十二月一日（日）

③特別展「京都」洛中洛外園と障壁画の美」

十月八日（火）～十二月一日（日）

④秋の庭園解放

十月二十六日（土）～十二月八日（日）

☆国立科学博物館

（〇三・五七七・八六〇〇ハローダイヤル）

①企画展「日本のアザミの秘密」

九月十八日（火）～十一月十日（日）

☆国立西洋美術館

（〇三・五七七・八六〇〇ハローダイヤル）

編集後記

記録的な酷暑も一段落し、ようやく秋の
気配も本格的になってまいりました。地球
温暖化によるものでしょうか。この夏の天
候は異変続きで、秋の味覚にも負の影響が
及んでいるようです。サンマ漁しかり、果
物類しかりです。高嶺の花のマツタケはど
うでしょうか。それはさておき、二〇二〇
年のオリンピックの開催地に東京が選ば
れたことは朗報でした。

しかし、浮かれてばかりでは困ります。
福島における原発事故の問題は根本的な解
決には何ら至っておりません。

東日本大震災における文化財レスキュー
事業の終了は前号で御報告いたしました
が、福島県の旧警戒区域の被災文化財はレ
スキューの恩恵にあずかることが出来ませ
んでした。このたび警戒区域の見直しに伴
い、レスキューの手が及ぶことになりました。
当財団も文化庁の要請に応じて、第二
次レスキュー活動とも呼ぶべき事業に協力
いたします。皆様方におかれましては、前
回同様に御理解と御支援賜りますよう、よ
ろしくお願い申し上げます。

広報誌「絲綢之路」（シルクロード）

二〇一三年 秋号 通巻第七十三号

★平成二十五年十月十五日発行

★編集発行／公益財団法人文化財保護・

芸術研究助成財団 事務局◎

〒1100007 東京都台東区上野公園十二一五十

電話（〇三）五六八五一一三一一

FAX（〇三）五六八五一一二二五

URL: http://www.bunkazai.or.jp/

E-mail: jinkuyoku@bunkazai.or.jp

★印刷 株式会社 東都工芸印刷